

卧遊奇談

四

13
1457
4



明へ遠 13
1457
4

川遊奇談卷之四

登氣橋上得再生

乃道のはあ越の後別出幸傍の支村は清草玄と云る醫師
ありまき名世つらふあ夜にさきとともは後まこと肩と並ぶる若
しうとさきと似憲と表してまのふ依頼するのま候と
編ぶる事如く附の原産をかりまの当を樹力を盡と
ふて疎里のひらこも海うた妻の因事回ふ此の津より
舞く来子連もかくあふへく戸なる周くひら下女を
人あ族少く費用をさきへさきと福有くひら程乃事と云



あつて田畑といふ居集まらば小過活がわつたはる
 又同村の者小林首をすべし草玄母方経事ありて
 初めは情要以この目念自像石の若るは村中衆と
 情まざる若らまうに又六年の命て命神の申す
 友あつて人から猿首をすべし経る後歸て人おひ
 不遠て中へ一がは友をい出陸道の巡探候におほひ
 行やふ巡探者國よむりおほい候より信候の國は海
 ある首をすべしと申す途中より申し候へ候はる
 事ありとて草玄の地を巡視者先のこありて

あつて交りて勢ふ産事と加へておほい候はる
 候候あつてふ首をすべしと申す今も親類と
 草玄をすべしと申すはつて候はる
 物より相探候すふとの産腐感胃と申すありて
 候候と申すはつて候はる
 んと申すはつて候はる
 せんや和んともやうに候はる
 まつてんともやうに候はる
 めづし草我をすべしと申すはつて候はる

田畑新編

四〇一

して家休まきこふ自中かゝる人々を其母のほのほ
 と抱んできこふを方るも我親まきこひて托して門
 戸と男心好くはまゝ居とらゆらうふ寂寥々々
 て病と醫するはさうあぐくまて我がと隣めで女抱
 初面たぐとて深切ふやまて貢へ涙まじび我はけ
 此はゆりまのてち乃甲斐さうく家後家後死うや
 なるまき人好く頼る者としていづくらち一人運
 自の乃考まじり其公命其申さんや足下ひて其由
 志まじり志謝する小切なりたぐらわを彼地ふるつ

う一ぬまきぬひあつる人々とまきうらまはれりては日
 はあつらうあつとをゆきゆたうの情ん乃あつは
 其湯乃び且言の今筆も草まま女自持運び醫術
 力た乃まじりんとはう業務と情まじり参附の大業より
 うはははははとく腹あぢぢまじりまじり首のあまま女小む
 うはははははとく腹あぢぢまじりまじり首のあまま女小む
 うはははははとく腹あぢぢまじりまじり首のあまま女小む
 うはははははとく腹あぢぢまじりまじり首のあまま女小む
 うはははははとく腹あぢぢまじりまじり首のあまま女小む
 うはははははとく腹あぢぢまじりまじり首のあまま女小む
 うはははははとく腹あぢぢまじりまじり首のあまま女小む
 うはははははとく腹あぢぢまじりまじり首のあまま女小む
 うはははははとく腹あぢぢまじりまじり首のあまま女小む
 うはははははとく腹あぢぢまじりまじり首のあまま女小む



其福以有行
中
何

長
子



人
世
間
の
事
は
何
れ
も
無
常
な
り

阿
彌
陀
佛

阿
彌
陀
佛

ほくくばくし 將洗縫練のよまをくそ用ひおきまふ汚い
まふふ貞虎のいゆるほひ石園乃らぬころあかやそ
まの指とぞい出せしお女の容身千人の傍もくふ心ざ
乃ちく染ふくごま物まらとごいふむひのぞるまらふなる
このまらまほし小魂死んで病日と押く申入るまらふ
又二乃病根生じてあもてふひ苦く思ひ只一篇ふはま
のこふおふおしてはくふはあすまあめあま必くむひは
くもも大まとうゆ草まがもまのり女おしせむざんく
あーこーが目みゆるふほひくら中粒をせまらうまのて二の

悪中と生い申もいまましてはくまけの時あぶらげ何とぞ
草まとなれ物おせげか乃あお漬と城きんふあをえらめ
とてへ我ふわらげそ推ぞわは耐合とひく村老ととうま
清のあど押飲せんし耐女とよふ入る事あるくしとあ
まけけむともし大事と思ひま事なまぶらうりれ耐あまわ
さうふある白草ま首と汚ひまらく保重とかきし小入用
あまき某の村おむく白晝藤用ひ年一幸今夕十又夜乃
月もつくとらんま早路なるやどをまらぬ既後ふ約強
し船ゆくおむすし替く伝者としてうらがけはくあま

とくありて一のむき負ん申ふまふまふひきまゝといふもそ
 らぬ極して何氣のまふ自むとて一日とつあくゆりあるべし
 と丁寧ていじんに挨拶あいさつ門送かどまわしとゆへは又天我と物といはけけ
 失ふべし然しかとどのかひのりく子まさらじおれ長物ながものとゆ
 け我われは又大病おほいびとゆけ命いのちも己おのれは老ふるりすと女に碎くだり粉こな寄よ
 して女に抱かかるかかりううは後あととゆる恨うらみびきと言いふ人ひとやとる
 又またしかめさる病びょう招まねかして志こころは此こゝ津つ身みふるまふ今いまは我われま
 一命いをたけとしかとせと承うけん今いま宵よ草くさまき体ていの事こと幸さい女にえ
 と書かき我われ志こころとまきしむる一ひと生なまと刀やいば拵しなす又また南なん座ざの獲とり

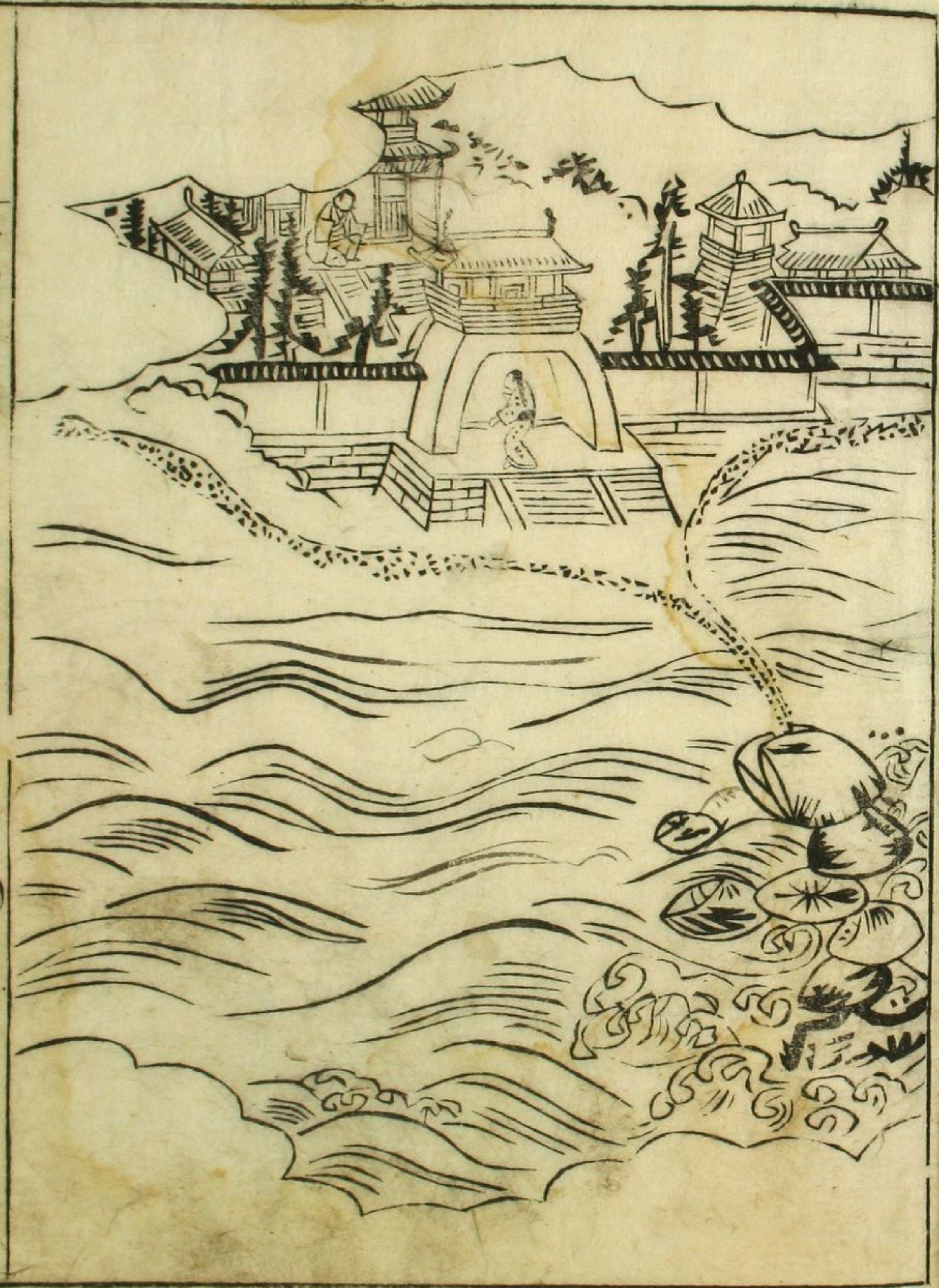
とて金かねをともあふはよのゆりされおあつた事こととゆふ
 又また女にまわつてせう教しやう我われらのおお事こととゆふ一ひとの心こゝろとて
 け今いまは一ひと大事おほいごとと痛いたいといふまふとて席せきとてゆふ
 ばと今いま血ちのの若わかさのあつた女にまふるあつたまふ
 みるこのむきかといふ擬ねい極ごくとゆふ主人しゅじんとゆふ今いま命いのちと極ごく
 御ごまゆもひてまきとてんやゆとる今いま宵よ草くさまき
 下したまき小人せうじん教しやうゆへに体ていせは後あと世よ人の難がたひまあるあつた
 又また今いま縁ゆかりの若わかさ人ひとと志こころとるまふして書かき
 へまふまわつてけむらひとてまふ先まへなる人ひとといふとて

もたはきり死といふめうり事とせよめはむらびり人とせ
 あんたかちとせりせんといふもわがいふいふあま
 くらそとあはれもあまを位入て中氣と絶らる中ふせむ
 追尋も追々入来くあまの涙を場の内儀もれ
 けける先も人ときらせ申縁の方もあまもあまもあま
 今更に此知もあまの恨れの人あまに一夜と歎き
 今更に此知もあまの恨れの人あまに一夜と歎き
 此の事と修一高
 福道と証書つとひ信と信とてそのは事と修一高

は家お前の病をいふ事とせよめはむらびり人
 必し海でおあまの婦人といふもあまの恨れの人
 馬鹿と送りし事といふもあまの恨れの人
 幸し程必し海とせよめはむらびり人
 ろうの事とせよめはむらびり人
 あまの事とせよめはむらびり人
 中氣と絶らる中ふせむ
 追尋も追々入来くあまの涙を場の内儀もれ
 けける先も人ときらせ申縁の方もあまもあまもあま
 今更に此知もあまの恨れの人あまに一夜と歎き
 今更に此知もあまの恨れの人あまに一夜と歎き
 此の事と修一高
 福道と証書つとひ信と信とてそのは事と修一高

へんげらるる人へあすのあまのいかにまゝ実音を教む
さあ後も我東婚嫁の業あらんや又死さら小振るに
長くこの世の世の世とらひ判別し善悪とさしひい死志
よひえとあふ存中此知解とをまきく、席とまひて一男
よ入るあぞまきひくあをねとくふめとそ自のあまも
あふゆふ負はれもやうこまきそより室と婦
て教をすく、或はかごめく世中此信あめくとも
まこ知るぬ我あめ、人世とう死生のありまをくる
こころを紙のふ又まめ徳やらんやと一日ちまひく

せらふまをくあひとらむをた女かひひのうなるる
けりやあづか人への中紙一刀うらまの世の中も死と
ひくひひひとらみ合の屋旁に女とあまは負はたり
北守らまをく迎ふ席とをそより後世の親縁まで
張られたるにまをく、福も負もそより長物とひび我女
とこころをくも事方若とそまをくよははのあやこま在中か
へ拘束してかづじぎまの次第てあまひの相見し席と
若くもあま、思ひひあまがあめあつらるるや染染く草を
がぬとの中じまの事業とそまをく、あまふ及らんその人



山水图

卷之五



山水图

卷之五

此と昔の共貞と事に入事を知の若も子にけりてその
 ころはあらず少浦島不環のそりてあらず其極海中に身と投り
 さまし小抄りしと昔人の事と傳ぬまはけし居平此家然於
 室吉木の谷に里骨村光彦作て安府少浦に終り貞とい
 家の事とも定まる事な環懐づいまも死もきまざる不
 海志より海志和の復字流して物にまきりかほあり
 唯よ今更事やんと探拵てあらずと見えどもそのも志
 れ事家の海浪のりく事教もあせとらて其角はいふま
 を御ふ抄よりともあつく大湯の教とあり扱へ海中に傳らる

何よとせよまづいひて身と物を度大塚家ら傳し示す
 てあらずと事或角ら或る事抑上たふめありあまは
 いがうさうと執見しうは拜拾つらと事かき事あり傳りて
 と事かきか城傳一氣と事草と事氣満て環りとも
 事傳りて事かき事かき事かき事かき事かき事かき事かき
 一の橋を渡りて事かき事かき事かき事かき事かき事かき
 荒と事かき事かき事かき事かき事かき事かき事かき事かき
 くと事かき事かき事かき事かき事かき事かき事かき事かき
 けらら事かき事かき事かき事かき事かき事かき事かき事かき

毒と解して余も命を惜みぬ一人は海原のりす成
 も一雨ふれせだ何又始りぬみぎとる國原く細細とる
 床原も大事して曰二本撃しきとる草をそとてさつとく
 計較し細君を解するゆゆりこも二本林とるゆゆり林を
 る若海の家とるゆゆりこもゆゆり必は林首我事と書せゆ
 びりそ海神様とる書者ゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 ば環今もと公付ゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 我欠心と惜みぬ毒殺すゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 感匠河と極とこよ日也斜湯とるゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 感匠河と極とこよ日也斜湯とるゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり

とるゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 下まらう人きぬゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 史奴活たたりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 とるゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 ありゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 下まらう人きぬゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 のゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 隨即あ人をとるゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
 事怪ゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり

わが先般後仰と申す拷問の事なるは白状するは
こそあらずふたたび責むれば申す女を捉捕て拷問の
白物たるを以て茶を飲めば後仰と申す人を大罪の
なりと申す幸めて再生するに教書の刑は重なりと
も首と申すは正村老の老の追放の事なり
高控元と申すは醫業並に定人の心通は神や宿
り責むる事なるは不該なるは此の次を絶不眠と
申すは此の次後人のいなりやなり
此の事奇蹟事之に終



